

レスクグラスの栽培について

第1報 播種時期と混播

加治屋 伸 章

(鹿児島県農業試験場)

KAJIYA, N.

Studies on the Cultivation of the Rescuegrass

(1) On seeding time and Mixture-sowing

現在、冬作の青刈飼料作物としてはイタリアンライグラスとエンバクがその大部分を占めているが、われわれはレスクグラスの特性特に刈取後の再生力が優れていること。病害が殆んどみられないこと。採種が比較的容易であることなどに着目し、昭和46年からその栽培法について試験を続け一応の結論が得られた。そこで今回は播種時期と混播について報告する。

1. 試験方法

1) 播種時期: 品種はガンソングズ, チャペルヒルの2品種を用い、昭和47年9月18日よりおよそ15日おきに5回播種した。施肥は基肥としてN: 0.8, P₂O₅:1.6, K₂O:1.6, 発芽後30日目N: 0.5, 刈取毎にN: 0.6, K₂O 0.6kg/aを施用した。刈取時期は草丈約70cmとした。

2) 混播: 利用時期を早めることと多収化を目的にレスクグラスとエンバク, イタリアンライグラスの混播を行なった。エンバクとの混播は60cm, 30cm条播と散ばんの3様式, イタリアンライグラスの場合は散ばん形式のみとした。播種量は各草種とも基準量の半分とした。

2. 試験結果および考察

1) 播種時期試験: 発芽日数は気温と大きな相関が認められ、特に平均気温が15℃以下になれば極端に発芽が遅れることが認められた。このことはその後の生育に強く影響をおよぼし、播種時期の違いにより第1回刈までの所要日数が大きく変動する(第1表)。

2回刈以降はいずれの播種時期においても、1~2月の低温期には50~60日、それ以後はおよそ30日を要した。刈取回数は早播程多く、最も多いもので6回、11月中旬播では3回と半減している。生草収量も早播程多く最も多いもので1,100kg/a, 播種期が15日遅れる毎に10月

第1表 発芽日数および第1回刈所要日数

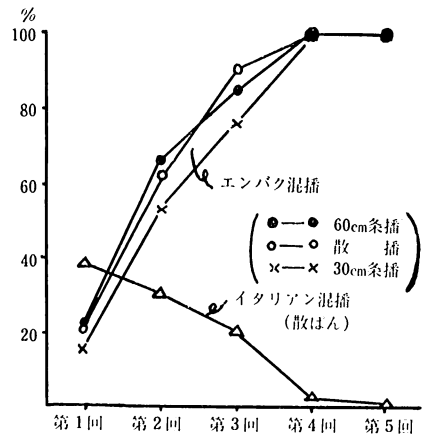
播 種 期	発 芽 日 数	第 1 回 刈 所 要 日 数
(1) 9 月 18 日	8	63
(2) 9 月 30 日	10	68
(3) 10 月 14 日	11	88
(4) 10 月 30 日	16	91
(5) 11 月 16 日	24	131

では約5%づつ減収するが、11月中旬なれば激減することが認められた。各刈取時期別の日生産生草量はいずれの播種期においても4月中下旬の値が最も大きくa当たり7kg/日強を生産している。播種から2月までと出穂の始まる5月下旬以降は日生産量が少ない。以上の結果からレスクグラスの播種時期は平均気温が20℃前後まで(鹿児島市では10月いっぱい)が適当であり、15~16℃になれば発芽、初期生育が極端に遅れ収量、利用回数も少なくなることが判明した。また、播種時期を違えても出穂に与える影響は少なく生育盛期もあまり移動しない。

2) 混播: 結果的には混播によって多収をあげることはできなかったが、エンバクとの混播によって利用期間の延長(利用開始がレスク単播より20日程早まった)ができた。刈取期別の草種割合をみると第1図に示すようにエンバクとの混播区においては第1回目20%, 第2回目60%, 第3回目80%と刈取を重ねるにしたがいレスクの比率が高まり4月中旬以降はほとんどレスク単一となる。イタリアンとの混播の場合はエンバクと全く逆の結果を得た。このような結果から混播草種としては生長曲線の似たイタリアンよりも、初期生育が早く再生力の劣るエンバクの方が適しており利用時期をかなり早められる。ただし混播による多収化はあまり期待がもてない。

参 考 文 献

菅野考己他: 農業および園芸, 46(1), (1971).



第1図 レスクの比率